


## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

  
↓

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者様のご家族やご友人ならびに地域社会とのかかわりあいを大切にすることを理念とし、地域推進会議を通して実施している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	おおまかなニュアンスとしては共有しているが、周知徹底には不十分であるといえる。		カンファレンスや新人職員が入社した際などにも確認の意味をこめて全職員と理念の共有を図るようにし、実践の意識づけを行う。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域推進会議を通し行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時や外出の際に出会った近隣の方々とは必ずあいさつをかわしている。(職員は全員、利用者様もあいさつできる方は行って下さっている)近隣の方に参加して頂いてのレクリエーションなどもある。(近隣の方の手品披露など)		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域推進会議を通し努めている。(町内会に入っている)		今後は町内会のゴミ拾い運動などにも参加したいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域推進会議を通し行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のカンファレンスにおいて、自分たちのケアの見直しや反省を行い、利用者様一人ひとりに適したケアを探しているが、自分達で気付いていない点などあるかもしれない部分を外部評価にて発見されることを望んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議を通し行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは窓口に行く機会にはお話をして帰るようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今までそれらを必要とするケースがなく、活用したことがない。		今後必要な方がでてくるかもしれないので、学んでおくとともに、もし必要となった場合には活用したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの中で話し合いを行い、また、事例などもちいて虐待防止の意識づけを行ってはいるが、法律を学ぶ機会をあらためて勉強会というようには行っておらず、知識として不十分な可能性がある。		高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をあらためてつくりたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関してはゆっくりと時間をかけて細かい説明を行い、納得を頂いてから契約を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様の口から言いやすい関係(信頼関係)を築けるよう努めている。また、生活の中で職員と一対一になる機会が生活の中のどこしにできるようにしている。</p>		<p>言葉では言いづらい方もいるかもしれないので、利用者様用の苦情箱を設置していく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1度、小口現金出納の報告を行うとともに、毎回ではないが近況報告の手紙をそえたり、別件での電話の際にも利用者様の様子を伝えたりしている。</p>		<p>手紙による近況報告はできるだけ毎回行うようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>地域推進会議を通して行ったり、意見箱を設置(1Fエレベーター近く)している。ご意見のあった場合はホーム長を通し職員に周知され改善を行っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア長を通し、ホーム長へスタッフの意見を吸い上げ、皆の意見を気軽に言える雰囲気となるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>休みの日でも連絡がつくように職員に伝えてあり、必ず連絡があったら折り返すようにして、職員確保できるようにはなっているが、連絡網の活用ができていない。</p>		<p>緊急連絡網の更新が必要。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>フロアは固定性としている。離職に関しては努力はしているが、福祉をとりまく環境全体を整えていかなば努力だけでは抑えきれないこともあると考えている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習の知らせがあれば参加申し込みを職員に伝えている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や個々のネットワークにより相互訪問等をしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	言いやすい雰囲気作りを心がけ、表情の変化に気づかい、「何かある？」と積極的に管理者の方からも話をきいてくれるようになっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理念にも「自己研鑽に取り組む」とあるように、日々のかかわりの中で、介護の仕事に対する学びを職員に伝え、各職員がすすんで仕事に取り組めるよう努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の際、必ず希望などをきき、ケアプランに反映させている。また、よく本人様の話をきき、情報を集めるとともに信頼関係が築けるよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の際、必ず希望などをきき、ケアプランに反映させている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	ケアプランに反映できるようにしている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	当ホームに入所する前の生活のリズムやどんなことに不安を感じていたかなどをききながら、できるだけそれに近い生活を提供できるようにし、できるだけ早く馴染んで頂けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者様の負担が大きくならないように配慮しながら、できること、やって頂けることをお願いしていたり、利用者様の今までの経験を生かせる行事を行うなどして利用者様から学ばせてもらっている。		
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	ご家族と協力して行なうことにより、利用者様へより多くの(良い)効果をもたらすことを家族に伝え、強力をあおげる所はお願いしている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	利用者様本人とご家族とが関係が悪いという方は現在おられない(ご家族様がいらっしゃる方に限り)		良い関係を築くための支援が必要な方が現れた際は行っていきたい。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	現在該当する方はいらっしゃらない。		今後、馴染みの人や場所がある方が入居された際は可能な限り行っていきたい。
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	他者を気にされる方が多い為、言いあいや暴言に発展し関係が悪くなることのないよう、職員が間に入り、双方の言い分をきき、うけいれたうえで、仲介するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在該当する方はいらっしゃらない。		必要とする方がおられたら行っていく。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新にあたり、毎回本人様に聞いたり、直接きくことが困難な方は、その方にとって何をする事でより充実した生活をおくって頂けるか考えている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活保護などで身寄りがなく、本人様からの情報のみの場合など話される内容がバラバラであったり、話すことが困難な方であったりして、情報が不十分なままになっている方がいる。		もう1度情報を整理し、サービスに役立てることはないか確認する。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握に努めている。他フロアから職員応援に来た際は、当フロアの職員が把握している情報を伝えながら指示を出しケアを行っている。カンファレンス・申し送りノートなどで職員間で情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様やご家族の希望・要望をもとにカンファレンスで職員の意見・アイデアをだしあい、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1度行っているが、見直し以前の大きな変化が生じることが最近なかったので、その他での作成は行っていない。(生活保護の方の介護保険証更新時には作成している)		大きな変化(入院など)あった場合には、新たな計画を作成する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	変化や反応がみられた時や気づきや工夫を行った時は記入するようにしているが不十分。		全員が必ず行っているかの確認もまだできていないが、今後はチェックを行う方向で現在用紙作成中(実施予定)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	通院介助、買い物同行など、家族が対応できない部分は行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	行事や防災訓練といった形で協力しながら行っているが、本人の意向や必要性に応じていると全てにおいてとは言いがたい。		本人の意向や必要性があり、協力が必要となった場合に協力していけるよう関係作りは行っておきたい。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	出張理美容に2ヶ月に1度来て頂いている。		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	現時点では該当するケースはなく、協働行っていない。		今後、該当するケースがでてきた場合は協働していきたい。
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	緊急時、受け入れて頂けるよう関係構築に努めている。本人・家族の希望や入居前からのかかりつけがある方は、そちらを受診するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科往診Dr.の他、戸田病院を利用している方多い為、そちらのDr.と何かあった際には相談するようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	内科往診Dr.に頼っており、看護職との協働はない。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	個人情報の取り組みも最近ではきびしくなっており、ホーム職員だけでは難しい場合もある。ご家族と同席をお願いし、情報の取り入れには努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在該当者なし。(当フロア)事例も今まではない。		医療と連携し、できる限り行っていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者(ターミナルの方)なし。		該当する方がでた際には行っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報は文書にし、職員間で共有し、ダメージを防ぐようにしている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	気をつけて行っているが、必ずしも全職員が行えているとは言いきれない。		新人教育を含め、職員間で考える場をもうけ、自分たちのケアや記録・対応・態度をふりかえるようにする。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できる限り行うように努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者様の希望やペースに合わせ行っているが、他の利用者様とのかね合いや通院・行事などの都合により予定を決めることがあるので、希望を全て実現することはできないでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は出張サービスを2ヶ月に1度利用しており、お店へ行っている方はいない。(希望する店がある人は今はいない)		希望する方ができた場合には行っていきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんどの利用者様が食事を楽しみにされているが、食事作りは他業者に委託しており、準備は職員が行っている。片付け・配膳は物を持っての歩行が安定している方がほぼおられず、職員が行っている。		毎日の食事は業者が入っているが、行事として何か作るという場をもうけた際には一緒に行って頂けるようにしている。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望のある方には行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>できる限りオムツを使用しないで、トイレで排泄できるよう本人様の状態をみて排泄パターンを考慮しつつ、トイレ誘導を行うようにしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴をご自分から希望されない方や2名対応でなければならぬ方に関しては人員不足のこともあり、時間や曜日を決めていたり、職員が入浴予定日を決めたりしている。拒否のある時は本人のタイミングに合わせることはある。</p>		<p>他の利用者様とのかね合いを考慮しつつ、希望のある方にはできるだけ入浴してもらえるように努めている。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>昼寝も希望の方には行って頂いているが、昼夜逆転とならない程度で声をかけさせて頂いている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>楽しみごとや気晴らしの支援も行っている方もいるが、その人により何が楽しく、何が気晴らしになるか把握が難しい方もいる。また役割作りも行うとしているが、「やらされている」と感じてしまわないような配慮が必要。</p>		<p>“～が好き”というふうにはっきりと意思表示されない方にとっての楽しみや気ばらしは何か良いのか考え、探していくとともに、やることの達成感を感じられるような役割作りを行っていく。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>所持されている方おられるが、使用したいというのではなく、持っていないと不安という方で、何かを買いいたいということがなく、使用されずにいる為、使う支援は現状では行っていない。</p>		<p>外出・買い物に出る機会を作ってみたいと思う。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や人員配置数にもよるが、希望により散歩の機会を持っている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>現状ではほとんど行ってはいないが、人員に余裕のある時に機会を作りたい。家族には時々外出して頂けるよう面会時にお願している。</p>		<p>行事という形で行っている。人員に余裕できればその時々に行っていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家が遠いなどの理由により、面会が少ない方で字が書ける方には手紙を書いて頂いたり、何か用があり、電話をする際には電話で話をさせて頂いたりしている。		本人の希望により手紙や電話をするということではなく、職員からの声かけにより行っている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも歓迎しているが、改めて何か工夫したりは行っていない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	知識に片寄りがあり、正しく理解できているがさだかではない。		正しく理解する為の勉強会のようなものを設けたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	離設してしまったケースがあり、以降安全の為施錠するようになっている。(近くに車量の多い道路あり)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認表にてチェックを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全に留意し、利用者様の行動に注意しながら危険のないよう取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間サポートしあいながら行っている。		知識をより正確なものとし、共有できるよう学ぶ機会をもうけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っており、全ての職員が正確に行えるかはわからない。		定期的に行い確認していく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を県の規定回数行いとりくんでいる。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	安全第一に考え、安心して生活して頂く為、リスクについてご家族に説明を行い対応策をとっている。(例:布団に鈴、ベット柵2点柵より多く使用の場合)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を感じた場合、すぐに通院もしくは往診Dr.に相談し対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全薬品・薬剤の種類や副作用を完ぺきに理解しているとはいえない。		処方された薬の説明書(薬剤情報)の確認をしていき、また勉強会などで理解を深めていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認、申し送りを毎日行い、状態に合わせて運動や水分補給量の増加に努め、その上で下剤の使用にてコントロールしている。(下剤はDr.の指示により)		運動でより効果的なもの(それぞれの方々ができる運動)を探し、全職員がやり方を共有できるようにする。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後必ず声かけや介助を行っているが、不十分なこともある。		声かけのみの方も行ったかどうかの確認は行っていく。必要に応じ、仕上げみがきを介助する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックを行い、不足がちな時には飲み物の種類や冷温をかって提供をこころみている。		摂取制限のある方でも、とらなすぎてしまうことのないよう注意し、栄養不足や脱水にならないよう努める。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザは必ず予防接種をうけて頂いている。手洗い消毒、うがい、プラスチック手袋の使用など。		感染予防に関する知識の確認の為、定期的に勉強会を行いたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・フキン・テーブル拭きなどの消毒は毎日行い、加熱調理するものは全て温度を測定している。		食事の調理自体は業者に委託しているので、食材が届けられるまでに痛んでしまう可能性もあり、業者への連絡・改善を求めるようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はデイサービスセンターと共有なので、等に工夫は行っていない。		必要であればデイサービスの方と協力して行っていく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、また、季節を感じる飾りつけやにおいへの配慮を行い、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で1人になる場所はない(居室のみ)フロアは食堂兼多目的ホールとなっており、安心感を持って頂く為に、座席に名前が書いてあるが、席の移動は自由で、思い思いに過ごせるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に合わせている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、よう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	近隣より日中「うるさい」との苦情あり、窓をあまりあけておけない為、消臭剤を使用している。温度調節は訴えに応じこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはバリアフリーになっており、廊下や浴室、トイレには手すりがついている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がどこか覚えられない方の部屋の扉やトイレに表札をつけ、見てわかるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	別ホームで2階のベランダから外にとびおりて離設したケースがあり、また、ベランダはフロアーからの死角になるスペースになっている為、安全の為に施錠している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自分から訴えることが困難な方や、話はできても「～したい」「～をできるようになりたい」と明確な意思を持って伝えて下さる方はほとんどおらず、どうすれば意欲を持って頂けるか探りながら、利用者様の側に立ち、どうすることがその方の充実につながるかを考えながら、職員一人ひとりが利用者様の介護にあたっており、職員間でもよく話し合いを行っている。また、できることはご自分でやって頂き、できることの喜びを感じて頂くとともに、今できていることができるだけ長くつづけていけるよう、残存機能の維持や低下の予防に注意しながら介護を行っている。